

がんの治療成績

医学は日進月歩で、というのが本当だろうか。新しい診断法や治療法がどんどん開発されて、治療成績は、右肩上がりでよくなっているという。

(多分事実なのだろう。)

今、治療成績のひとつの指標として、がんの治癒率がある。普通、発病後5年間生存していれば、「なおった」という。そして、10年、20年経過している人が、いくらでもいる。

ところが、例えば10年生存しているとすれば、この人は、「10年前の治療法でなおった」のである。だから**現在の治療法で、同じ成績が得られるかどうか**は、10年後にしか判断できない。

確かに、今までは治る率が上がってきているだろう。しかし今の治療法が、**最善を目指してはいるが**、本当に最善であるかどうかは実は、10年、20年経たないとわからないのである。

また、新しい薬にとびつく医者がよくいるのであるが、今までになかった薬ならともかく、すでにある薬と同工異曲の薬を、「新薬だから」といって使用するのには、ちょっと反対。余程に従来の薬の評価を覆すほどのいい薬ならともかく。

なぜかといえば、古い薬は、開発されてから何千人、何万人、あるいは何百万人に使われてきた。そして、その効果と副作用とがよくわかってきている。

だから、新薬を次々に使用する人よりも、どちらかといえば忘れ去られたような、古くさい薬を使う方が、いいのである。年数が経てば、ある程度廉くなるしネ。

廉くなるといえば、ジェネリック医薬品がある。厚生省は随分推薦しているようだが、以前に少し書いたけれど、オリジナルの薬と比べると吸収性とか安定性とかのために混じっているちょっとしたまぜ物が少ないし、本来のものとは比べて異なった薬品と考えた方がいいかもしれない。そのため、微妙な効果の差が見られる。一部使用しているが、でないはずの吐き気がでたり、いまひとつ効果がみられなかったりということがあって、どのジェネリック医薬品がいいか、実はわからない。判断するのに4～5年は優にかかるだろうと思っているし、先発品に肩を並べるまで、つまり信頼を得るまでには、もっと時間がかかるのかも知れない。

話は飛ぶが、現在使われているなかで、一番古い抗がん剤が作られたのは、1949年である。そして最近になって、新たに関節リウマチの特効薬としてよみがえってきた。抗がん剤として使用していたときには、口

内炎ができたり、肝機能異常、腎障害、骨髄抑制、消化器症状、間質性肺炎などなど、覚えやすい順番で副作用を覚えたもので、小生自身は結構重宝していたのだが、実際に駆使していた医師はあまり多くない。骨髄移植のときによく使用されたのであるが、詳細はその稿に譲る。さらにエンドキサンという、ナイトロジェン・マスタード(イペリットガス。毒ガス兵器でナチスが使用するかどうかといわれていた。)の誘導体がある。あらゆる癌に使用され、また使用しやすい薬剤である。骨髄移植が日本でも広汎に行われるようになった 1970 年代に、米国のノーベル医学賞をもらった D・トーマス教授が報告してきたのも、エンドキサン超大量投与である。(骨髄移植の歴史は別稿)

エンドキサンが作られたのは 1959 年で、これを作るまでに少なくとも 20 万種類以上の化合物が、人間に使用できるかどうか調べられた。その後もエンドキサンを超える薬を作るために、何十万種類かの化合物が確かめられたのであるが結局、50 年間でひとつもできなかった。だから、古いからといって捨てるのは間違っている。今や、コンピューターで薬を作ろうという試みが為されている時代である。

・・・・・・肝臓のくすりとしてよく使われているウルソは、江戸時代という熊胆(クマノイ、ユウタン)であり、昭和 20 年代には、胃薬とし

て売られていた。つまり 50 年以上現役である。30 年前、肝臓の薬として使用するべきだと言い出したのは、実は小生である。

新しい治療法といえ、日本初の心臓移植（いわゆる和田移植）の際、当時の新聞は「拒絶反応抑える新手術法」と見出しに書いた。そんなもん、あれへんのにな。だからしつこくくりかえすが、新しい薬すなわち奇跡の薬ではないし、新しい治療法が常にそれ以前の治療法を超えるかどうかはわからないのである。

新しい薬は注意が必要である。使用した人数が桁違いなのだから。たとえば、先ほどのエンドキサンにしても、出血性膀胱炎はあるが心臓には影響が無いと考えられてきた。ところが超大量を骨髄移植に使用したところ、心不全を起すことがわかってきた。

書いているうちに次々と連想が働いていく。

「熊胆」はユウタンと読む。映画のアカデミー賞でゴールデン・ベア賞（Golden Bear）がある。このままカタカナで使用すればいいのに、無理矢理直訳して、金熊賞と新聞は書くし TV はキンクマ賞と読む。これは、キンユウ賞と読むべきで、キンクマはおかしい。クの内側にごみでもついてたらどうするねん！

今メタボリック・シンドロームがこのところ「大流行」している。しかし、これが、理屈はともかく、本当に健康で快適な生活を約束するものかどうかについては、実は10年、20年経過しないとわからない、むしろ30年後とかというのが本当のところである。事実は事実として認めてもその運用については医師全員が賛同しているわけでもない。いろんな社会的条件も加味して判断するとき、絶対的な「善」というのもないだろうと思うからである。

2007.04.20.